

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,22 2017年 春号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い②「可愛くて最強？の猛禽フクロウ」
突撃！鳥海イヌワシみらい館⑤ 西年記念！ 日本鳥類保護連盟専門員 鳥海隼夫氏に聞く！
イヌワシってこんな鳥⑩「イヌワシの繁殖阻害要因」

『トラフズク（2017年）』庄内町にて

可愛くて最強？の猛禽「フクロウ」

3月上旬「産卵」

ピンポン玉大の卵を2~4個産みます。フクロウの卵は球形で、樹洞の巣は転落する危険がありません。

フクロウの一年

4月「孵化・巣内育雛期」

抱雛はすべて♀の役割です。食事と排泄以外は全て巣の中で過ごします。

最も「夜」の環境に順応した鳥。それがフクロウです。可愛い見た目とは裏腹に猛禽類として獲物を襲う恐るべき特徴を持っています！

ヒナを連れて行かないで！

巣から降りているヒナを見つけて、親切心から収容されるケースが相次いでいます。フクロウは自分で巣に戻る場合がほとんどです。見守ってあげましょう。

最強！平たい顔（顔盤）



パラボラアンテナ

大きな目は少ない光でも取り込むためパラボラアンテナ状の顔盤は音を集めます。

フクロウの頭骨

最強！耳の位置

左右非対称の高さにある耳の位置によって、聞こえる音から獲物の位置や距離を測るセンサーとしての役割があります。

最強！静かな羽

羽のエッジをギザギザにすることで乱流を生み出し、羽ばたきの音を消すことで獲物に気づかれることなく近づけます。これは騒音を軽減するために飛行機の翼や新幹線のパンタグラフに採用されているボルテックス・ジェネレーターという技術と同じ原理です。

5月「巣立ち

・巣外育雛期」

フクロウのヒナはまだ十分に飛べない時期でも歩いて巣から出ることがあります。

鳥

最強！対趾足



ミサゴと同じ前2本、後2本の趾には滑り止めの毛も生えていて獲物を逃がしません。

8月「巣外育雛期」

飛べるようになったヒナたちは、森の中で昆虫たちを相手に学習しながら経験を積みます。事実上の巣立ち期です。

11月「求愛期」

♂は♀に獲物をプレゼントして気を引きまします。♀もエサ乞い鳴きをします。

10月「子別れ期」

自分でエサが取れるようになった若鳥は出生地から分散していきます。

庄内の動物情報 二一

まだ当館の駐車場には高く積まれた雪が4mほど残っていますが(3月下旬)、それでも今季の施設周辺の降雪量は少なかったと感じています。庄内地方では今季は暖冬だったと言って良いのかなと思います。桜の開花は平年並みということで、この通信が発行される頃には山形県内では見ごろを迎えているころだと思います。環境変化等にお気づきになりましたらmoukin@raptor-c.comまで投稿ください。



2017/1/3 「クマタカ」酒田市
こいつぁ～新年から縁起が良い！一富士二鷹三茄子のうち、二鷹の最大種ですから！しかも若鳥。実り多い年になるといいですね。
撮影: 齋藤利孝様



2017/1/18 「シジュウカラガン」酒田市
ガン類が極めて多かった今シーズンの冬。日本海側では珍しいシジュウカラガンも私たちの目を楽ませてくれましたね。撮影: ナツシーくん



2017/2/22 「ウソ♀」鶴岡市
真っ赤な方ではないメスのウソ。桜のつぼみを食いまくってます。見たいけどあまり大群では来ないでほしい！嘘です。でも日本人ですから花見も楽しみなんだから。撮影: 高橋典子様



2017/2/16 「ヒシクイ」鶴岡市
今季はどういうわけか多かったガンたち。種類も豊富にフィーバー状態。なんだ？何が起きているんだ？撮影: 高橋典子様



2017/3/13 「ヨシガモ」鶴岡市
公園のお堀は割と穴場かもしれませんね。手軽に身近な環境で野鳥が見れるスポットです。「ナポレオンの帽子」に見えますよね。
撮影: なおちゃん



2017/3/10 「ヒバリ」酒田市
草むらでけたたましくピーチクパーチク鳴いているのがヒバリ。岩の上では隠れるところもありませんので、あんまり鳴くと猛禽類に狙われるぞ！
撮影: ナツシー君



2017/3/26 「ナベヅル」酒田市
凧揚げをしていたところサギとは違う鳥が来た！と思ったそうです。サギを知っているからこそ違いにも気付けるってことですね！
撮影: 渡会様



2017/3/29 「テン」遊佐町
ご自宅の裏にひょっこりと姿を現したテン。まるでぬいぐるみのようです。まだ顔が白ですが、これから黒い顔の夏毛に変わります。撮影: 渡会様



2017/4/3 「ヤマセミ」酒田市
白と黒の2色なんですが、その入り方が実に美しい鳥です。トサカがまたかっこいい。カワセミもアカショウビンも見れると嬉しくなりますよね。撮影: 齋藤湧くん



2017/4/3 「ジョウビタキ」酒田市
頭部のシルバーと体のオレンジ色が美しい、冬を代表する小鳥です。これから繁殖のためにシベリア方面へ渡っていくのでしょうか。
撮影: 齋藤湧くん



2017/4/3 「オシドリ&シノリガモ」鶴岡市
何っ！？鳥の世界にもダブルデートがあるのか？カモ界のおしゃれカップル同士が海辺で戯れている様子です。
撮影: 高橋典子様



2017/4/9 「ムササビ」酒田市
闇夜を舞う動物といえばフクロウ？いや、ムササビを忘れてもらっちゃ～困ります！子育て真っ最中のような様子ですね。頑張ってます！
撮影: 土田弘好様

突撃！鳥海イヌワシみらい館⑤



酉年記念！日本鳥類保護連盟専門員 鳥海隼夫氏に聞く！

「ハチクマ」撮影：鳥海隼夫

とりうみ はやお

「ミソサザイ」撮影：鳥海隼夫

春です。山形県内のその道のプロに教えを乞う「突撃！鳥海イヌワシみらい館」のコーナー。今回は酉年記念第2弾ということで、日本鳥類保護連盟専門委員、鳥海隼夫さんにお話を伺ってきました。

～食事中やトイレの中でも図鑑をはなさず～

本間) 山形県立博物館の展示などでお名前をお見かけし、そのお名前から、とても他人とは思えない親近感を抱いておりました。お名前は本名なのですか？

鳥海) はい本名です。鳥海隼夫は父親がつけてくれた名前です。鳥海姓は母方、伝聞によると遠い昔、岩手県胆沢郡あたりから鳥海山のふもとに移り住んだ一族が各地に移住し、我が鳥海家は実母が大正時代に横浜から山形の祖父母の養女となって現在に至っています。子供のころは運動神経が鈍く、悪童たちから「遅夫」と呼ばれ、父を恨んだこともあり。平成12年、日本鳥類保護連盟より鳥の調査研究・保護について功績があったという理由で褒状をいただきましたが、その際に常陸宮殿下とお妃の華子さまより「本名ですか？」とお尋ねがありましたので、父親がつけてくれた名前ですとお答えしましたところ「素晴らしい！なんと素敵なお名前でしょう！」と褒めてくださいました。今ではよくぞいい名前を付けてくれたと父親に感謝の気持ちでいっぱいです。



本) 鳥にかかわるようになったきっかけはどういった経緯ですか？

鳥) 子供の頃は勉強よりも黒板横の水槽で飼育されているフナやメダカ、オタマジャクシなどの動き、教室の軒下に巣をかけたスズメやツバメのヒナの様子に熱中し、何度も席替えをさせられました。しかし理科研究発表会では「小鳥の観察」で学校の代表に選ばれて表彰されたこともあります。大人になってからも、近くに鳥に詳しい方がいなかったため、日本野鳥の会東京支部主催の明治神宮で行われる定例探鳥会に、米沢から夜行列車で出かけ何度か参加しました。鳥類の知識や情報がほしかったこともあり、日本鳥類保護連盟にも入会しました。鳥の名前を覚えるため日常坐臥、食事中やトイレの中でも図鑑をはなさず、その上当時は野外観察用のガイドブックが出版されてなかったため『原色日本鳥類図鑑(小林桂助・保育社)』を2冊購入し1冊はページをバラバラにほぐして持ち歩きました。今日ではいろいろな観察用のガイドブックが出版され簡単に手に入るので隔世の感があります。

本) 鳥だけでなくカモシカなどの哺乳類も研究されているよう

ですが、どういった経緯ですか？

鳥) 学生時代に山登りに熱中し、吾妻山中にある温泉宿に泊まったところ宿の老主人から「オニ(カモシカのこと)が出るぞ。岩の上から伺っているから気を付けろ！」と脅かされましたが、そのオニが見たくて休日に山通いを続け、ついにカモシカと出会いその神々しい姿に、とりつかれたようにカモシカを追いつづけました。あわせて絶滅したものに哀悼と哀惜の情から、明治38年(1905年)を最後に日本から姿を消したニホンオオカミの絶滅に至るまで文献や伝承を求めて、東北地方を中心に資料を収集してきました。かつて狩猟圧のために絶滅寸前に追い込まれたカモシカと、原因不明なまま絶滅したニホンオオカミの運命にどこか似たところがあるのではないかと、カモシカに熱中したのではないかと思います。最近は一切の調査・研究からは退いていますが、遊びに出かけた山路で馴染み？のカモシカに出会うと”お前さん元気だったか？少し老けたんでないか？”などといいながらカモシカに出会うのを楽しみにしています。



鳥海さんが追い続けた「カモシカ」は国の特別天然記念物であり山形県の獣にも指定されている。撮影：鳥海隼夫

本) お鷹ぼっぼなど、米沢市には鷹に関連する文化が多く根付いていると感じますが、鷹について何か特別な地域性があるのでしょうか？

鳥) 置賜地方にある白鷹山(標高994m)は、行基がこの地に訪れた際、瑞鳥(めでたいことの起こる前兆とされる鳥)の白いタカが現れたので、山頂に虚空蔵菩薩を祀りこの山を白鷹山と呼びました。江戸時代の名君上杉鷹山公もこの白鷹山にちなんだといひます。米沢市にはかつて鷹匠やタカを世話する係の者が住んでいた鷹匠町、鷹狩を行った鷹待場、狩場に通う御鷹道などの地名が残っています。白布温泉も、昔傷ついたタカが温泉で癒し、飛び去った後に白い斑の大きな羽を残していったので白斑鷹湯と呼ばれたことがはじまりといひます。地域性とは言えませんが、指摘の通り置賜地方にはタカにまつわる事跡や伝承が多いようです。

本) NHKの番組「自然のアルバム」の制作にかかわったり、特に1988年に放送された動物番組「ウォッチング」トラフズクの回には専門家としてご出演されていますが、撮影の苦労話や出

演されての感想をお聞かせください。

鳥)対象の個体に極力影響のないようにディレクターと綿密な打ち合わせをして撮影に入りました。トラフズクは夜行性なので徹夜仕事、現場にテントを張り雨の夜も寝ずの番。撮影も順調に行き撮影最終日、ディレクターが「この番組が放送されればフクロウブームが来ますよ」と語っていました。事実、フクロウの仲間の体の動きや、擬態をする姿など生態や習性、獲物を捕らえるために備わった機能などを紹介した番組は、それまでのテレビ番組ではごく少なかったようで、放送の影響のためか動物番組やクイズ番組でも取り上げられるようになりました。放送の以前は「家の近くで不気味な音がする」といった通報があってお巡りさんが出動したこともあるそうですが、放送後、声の正体がトラフズクだとわかり、畜舎や畑のネズミを退治してくれるということを知って、むしろ大切に保護しなければいけないということで話題になったそうです。私個人としては面識のない方から手紙や電話で生態についての質問などがありその反響に驚きました。

本)最近鳥海さんが注目している動物はありますか？

鳥)ハチクマの体色の差異に興味があります。天気の良い日は青空をバックに弧を描いて飛ぶクマタカやハチクマに出会うことを楽しみに出かけています。里山に出没するツキノワグマやイノシシにも関心があります。



ミツバチの分封を襲うハチクマ 撮影：鳥海隼夫

～無関心な気持ちで関心を持って～

本)鳥海さんの長いフィールドでの活動経験から現在に至るまで、社会の環境保護についての意識の変化を感じますか？

鳥)以前は行政側の主導一辺倒でしたが、1997年以降環境アセスメント法が施行されてから変化してきました。行政側の担当者は環境保護に理解を持ちつつ、環境アドバイザーの助言と行政という立場でジレンマを感じている担当者の考えを聞いたことがあります。一般の人たちは環境アセスメントの存在さえ知らないのが現実ではないでしょうか。保護のためなら疑問や要望は直接行政側に求めることだと思います。そして何よりも皆さんがフィールドを知ることだと思います。

本)山形県の環境は今後どのように変わっていくと考えますか？

鳥)米沢市内にもトキが飛来して話題になりました。過去に米沢にもトキ、シカ、イノシシが生息していた時代があったようですが、当地方では絶滅し、地域絶滅種となっています。そういう意味ではシカやイノシシも外来種ではないでしょうか。他県でイノシシの調査を行ったことがあります。農作物の甚大な被害、地勢が変容するほど掘られた山の斜面、ダニを落とすために体を電柱にこすりつけ、太い電柱が半分になり今にも倒れそうになっている様子を見てイノシシのパワーのすごさに背筋が寒くなりました。山形県の環境が今後どのように変わっていくのか、私には難しいテーマです。特に野鳥たちにとって生息場所や繁殖場所などの環境悪化が進み繁殖率の低下、そ

の反対にある鳥種は繁殖率がよくなるなど、哺乳動物のある種にもいえることだと思います。数十年前までは山間の小学校前の電柱にブッポウソウが営巣し、飼猫がアカショウビンを啜ってきた。作業着を干していたらポケットの中にヤマネが入っていたこともあり。夏の夜、窓を開けて寝ていたら蚊帳にコウモリがぶら下がっていたこともあります(調べるとコテングコウモリだった)。当時としては決して珍しくなかったのではないのでしょうか、今思えば「はらかな国、遠い昔」になってしまいました。このような思い出話やおとぎ話に出てくるような環境に戻すのは無理ですが、せめてブッポウソウや森林にすむコウモリが繁殖できるような環境を残したいと思っています。

本)人と動物たちとの距離はどうあるべきですか。

鳥)バードウォッチングや撮影は、野鳥側からすれば迷惑千万、人間が野鳥の私生活をのぞき見るわけですから、遠慮も必要だと思います。曖昧模糊で意味不明な回答になりますが、つかず離れず、無関心な気持ちで関心をもって観察してほしいと思います。

本)鳥海さんにとってバードウォッチングとはどんな意味がありますか？またこれからバードウォッチングを始める方に一言お願いします。

鳥)私にとっては動植物を学ぶ自称・自然愛好家の野外学習教室です。双眼鏡とガイドブックさえあれば一人でも楽しむことができます。仲間がいればまだまだ楽しくなります。見たことのない初めての鳥を、図鑑で調べ名前が確認できたときの喜びや、その感動を仲間に伝えることができるのは、バードウォッチャーだけの特権だと思います。理屈はいりません。ただ楽しんでください。そのうち気に入った鳥や大好きな鳥に出会ったとき、せめてひと夏だけでも続ければ新しい出会いや発見があると思います。仕事中や運転中、聞きなれない声や見慣れない鳥の姿を見ると、仕事のミスや運転のミスにつながりかねませんので、気を付けましょう。それほどバードウォッチングは魅力のあるものです。

まさに動物たちが警戒しない人という印象の鳥海隼夫さん。研究されてきた人と動物たちとの関りによってできた文化についても話していただきましたが、環境に関わっている人のみならず、多くの人たちに知ってもらうことで、自然や動物に対して改めて考えるきっかけになるのではないかと思います。無関心に関心を持つというお考えに賛同したいと思います。



山路で遭遇した「イタチ」 撮影：鳥海隼夫



鳥海 隼夫(とりうみ はやお)
1938年米沢市生まれ日本鳥類保護連盟専門員、米沢市文化財保護審議委員。
著書に『カモシカの民俗誌(無明舎)』等

イベント開催報告

○猛禽類観察会「冬のワシ・タカ探し」開催しました！

2月12日(日)、鶴岡市大山地区にあるラムサール条約登録湿地・下池にて「冬のワシ・タカ探し」と題し、冬にやってくるオオワシ、オジロワシなどの猛禽類を対象にした観察会を開催しました。講師は鳥獣保護区管理員の宮川道雄さんです。

今期の冬、庄内地方では「ヒシクイ」などのガン類が例年に比べかなり多く飛来したことに加え、オオワシ、オジロワシも目撃情報が多く寄せられたため、今回の観察会でも出るのを待っていたのですが、結果的にオオワシ、オジロワシを観察することはできませんでした。しかし参加者からは上池・下池がラムサールに登録されることとなった経緯を知っていただくことができ、地元の方々の努力で今日の環境が保たれているという理解をしていただくことができました。最近では山野草の盗掘や、猛禽類を追いつめるような行動をとっている方もいるようで、環境に配慮して公園の利用をしていただきたいと思いますと講師の宮川さんから参加者へのメッセージを伝えていただきました。講師の宮川道雄さん、参加してくれた皆さんありがとうございました。

当日観察できた鳥：ノスリ、トビ、マガモ、モズ、カワアイサ、ダイサギ、アオサギ、ミコアイサ、ツグミ、トモエガモ、ハシボソガラス、カワウ、コガモ、オシドリ、カルガモ、オナガガモ、ヨシガモ、オオバン、ヒドリガモ、コゲラ、ハジロカイツブリ、キセキレイ、オオハクチョウ、コハクチョウ 計24種



トモエガモのほか、マガモなど多くの水鳥が利用する下池

○西荒瀬保育園「鳥っ子になろう！」出前講座を行いました！

1月19日(木)環境学習に力を入れている酒田市内の保育園、西荒瀬保育園からの依頼で、野鳥に関連した出前講座をしてきました。様々な鳥がいることについて、「食べる」ことに焦点を絞ってくちばしの特徴と、くちばし当てクイズ(ちょっと意地悪なクイズだったかな?)、鳥たちの狩りについてお話ししました。

鳥変身キットを装着してもらい、水鳥のほかスズメ目、シギ、ワシになりきって、採餌してもらいました。

子供たちは無邪気で元気で、パワーをもらいました。これからも定期的に依頼があるとありがたいです。



○学習・観察会「闇夜の猛禽フクロウ」開催しました！

3月11日(土)学習観察会「闇夜の猛禽フクロウ」を開催しました。講師は自然保護専門員の長船裕紀さんです。

前半の室内講座を中心にして、日が暮れてから外でも観察をしてみようという内容でした。前半の講座では講師の長船さんによるフクロウの生態や保護についてのお話をいただき、参加者から体験としてフクロウの「ペリット」(採餌後に骨や毛など消化できない動物の部位を口から吐き出したもの)解析をしていただきました。出てきたネズミの頭骨などに参加者も驚きの声を上げていました。後半の観察では、姿を観察することはできませんでしたが、遠くからかすかにフクロウの「ゴーホー」という声が聞こえてきました。全員が聞き取れたわけではなかったのですが、フクロウがこの闇夜に舞う姿を想像していただくことができたのではないかと思います。この日は奇しくも東日本大震災から6年を迎えた日でした。まだ高く積まれた路肩の雪壁に雪洞を掘り、その中に「蜜ろうソク」を灯して当館なりのキャンドルナイトとさせていただきます。

夜遅くまで参加してくれた皆さん、ありがとうございました。

観察できた鳥(声)：フクロウ、ハクチョウ





イヌワシってどんなワシ? ⑰「イヌワシの繁殖阻害要因」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシって何?と思う人や図鑑でしか見たことがない人もいます。そこでシリーズ17回目は「イヌワシの繁殖阻害要因」について紹介します。

イヌワシの繁殖成功率が年々低下していることを前回の記事で紹介しました。イヌワシは生態系の頂点生物であり、幼鳥がカラスやハクビシンなどに襲われることはありますが、成鳥への捕食圧はありません。ですから私たちが普段気づきにくい「何か」が影響して、数が減っていると考えられています。環境にどのような影響を及ぼすことでイヌワシの繁殖の悪化につながっているのかを紹介したいと思います。

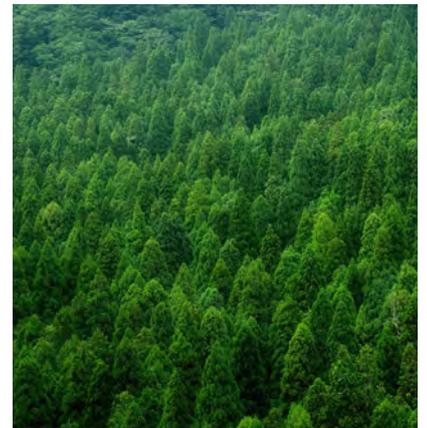
○繁殖阻害要因①「開発による環境悪化」

野生動植物への影響で一番最初に思いつくのは、人間による「開発」ではないでしょうか?これはわかりやすく、自然を破壊することでイヌワシがそこに住めなくなることです。ここ鳥海イヌワシみらい館も、過去、鳥海山にスキー場開発計画が持ち上がり、イヌワシの生息のためにスキー場計画を取りやめた経緯があります。環境に配慮することが当たり前になった現代で、開発行為は過去のものと思われがちですが、再生可能エネルギーなどの用地候補の近くにイヌワシの生息地があるなど、日本各地で新たな危機が危惧されています。工事の際、重機の発する騒音等によっても、営巣や育雛の放棄につながります。



○繁殖阻害要因②「森林の鬱閉」

少し難しい問題ですが、木や森がありすぎてもイヌワシにとっては住みにくいのです。山には木材を得るためにスギの木をたくさん植えました。現在は海外から木材を安く仕入れられるようになったことで、国産木材の需要が減っていき、植えられたスギの木が山に放置されてしまいました。また私たちの生活スタイルも変わり、昔は木を切って薪を作り暖房や炊事に使用していたのですが、現在は石油などの燃料に変わり、山の木に手を加えることをしなくなってしまいました。スギの木は冬でも青い葉を茂らせ、イヌワシの狩りを妨害しています。スペースに無駄なく植えているので、狩りをする場所もないのです。次の③に関連して、暗い杉林の中は生物が多様ではありません。このように山と人との関り方の変化もイヌワシの繁殖に影響を及ぼしています。

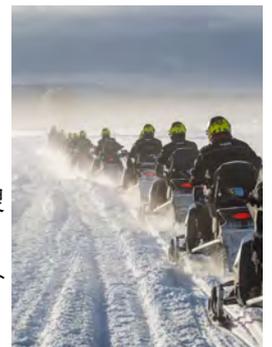


○繁殖阻害要因③「エサ動物の減少」

①によって生活の場を失うのはイヌワシだけでなく、イヌワシの重要な食料となるノウサギなど動物たちも同じです。開発行為が直接イヌワシの巣などの拠点に影響を及ぼさなかった場合でも、エサ動物をはぐくむ環境が失われた場合は、いずれイヌワシたちは食べるものを失ってしまうわけです。これは親鳥たちだけでなく、幼鳥にも食べさせるものがなくなるということで繁殖が失敗するケースです。

○繁殖阻害要因④「人のレジャー活動による繁殖の妨害」

昔に比べ、人のレジャー活動も多様化してきました。最近では登山のブームや、オリンピックの正式種目としても取り入れられたクライミングも注目を集めています。スキーやスノーボードに加え、雪原を縦横無尽に移動できるスノーモービルなども人気のレジャーです。大自然の中で行われるこれらのレジャーは自然と触れ合うことは大変良いことですが、自分たち以外誰もいない環境の中で、それが人間のものであるかのように誤認してしまうのかもしれない。遭難すればヘリコプターの出動、大規模な捜索が行われます。大きな音を立てて巣に接近することもあるかもしれません。ロッククライミングの場合では岩の上に巣があったと気づかないケースもあるようです。冬に繁殖期を迎えるイヌワシにとって、ヘリコプターによる救助作業やスノーモービルは集中して子育てをできなくする要因の一つです。



○繁殖阻害要因⑤「鉛中毒などによる生物濃縮」

以前に比べれば、使用される農薬の成分が規制され、より安全性の高い環境にも配慮したものが使われるようになってきています。しかし新しい農薬でも環境への影響はあるのではないかとことが疑われています。それら農薬を摂取したエサ動物をイヌワシが食べることで、毒素がイヌワシに蓄積されていくことを生物濃縮といいます。最近ではジビエ(野生動物の肉)がブームになっていますが、ハンターが使用する弾には「鉛」が使われることが多く、撃っても回収できなかった死骸を食べた猛禽類が、鉛中毒になってしまうケースが報告されています。イヌワシだけでなく、保護された猛禽類の中には鉛中毒を示す個体が少なくありません(人も含め鉛は生物に深刻な影響をもたらします)。個体の中毒死につながったり、正常な卵が作れなくなるなどの影響が考えられています。

今シーズンの冬も、鳥海山でスノーモービルの乗り入れが多くありました。レジャーで利用することについては個人の権利であるとは思いますが、自然は人間たちだけのものではなく、そこに暮らす野生動物がいてこそであることも理解し、配慮のある行動をとっていただきたいと思います。また特に現在問題となっているといわれている阻害要因②「森林の鬱閉」ですが、これについては各団体や企業で問題を解決するための取り組みが行われていますので、また次回のコラムで紹介いたします。

イベント情報コーナー

○猛禽類観察会「里山の猛禽サシバ」

環境豊かな里山にやってくる絶滅危惧種の猛禽類サシバ。豊かな環境とはどういう場所で、そこにはどのような生物が暮らしているのかも合わせて観察します。

期 日 平成29年4月15日(土)
時 間 8:30~12:00
場 所 参加者にお知らせします。
定 員 先着25名
参加費 一人300円(保険・資料代)
講 師 長船裕紀(希少種保護増殖等専門員)
持ち物 防寒着、双眼鏡(貸出可)、マイカップ、筆記用具
募集期間 3月16日(月)~4月13日(木)午後5時まで
お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)
E-mail: moukin@raptor-c.com



○月山ビジターセンター・鳥海イヌワシみらい館共催「春を感じるさえずり観察会」

ピカピカ輝く木々の新緑。その葉に見え隠れする夏鳥たちの恋の歌に、そっと耳を傾け、春を感じてみませんか? いろんな恋の歌がきくと聞こえてきます。

期 日 平成29年4月29日(土)
時 間 8:00~12:00
場 所 大山公園駐車場
講 師 太田 威氏(ネイチャーカメラマン)
定 員 なし
参加費 大人一人100円(保険代・資料代) 小人無料
持ち物 双眼鏡(貸出可)、飲料水、行動食
※ハイキングコースを歩きますので歩ける服装でご参加ください

募集期間 4月27日(木)まで
雨天時は中止となります。天候による開催の有無については当日の6:00~6:30の間に月山ビジターセンターにお問い合わせください。
お申込み・お問合せ
①TEL 0235-62-4321(月山ビジターセンター)
E-mail: visitor@bz04.plala.or.jp
②TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)
E-mail: moukin@raptor-c.com

月山ビジターセンター・猛禽類保護センター共催
春を感じる「さえずり」観察会

ピカピカ輝く木々の新緑。その葉に見え隠れする夏鳥たちの恋の歌に、そっと耳を傾け、春を感じてみませんか? いろんな恋の歌がきくと聞こえてきます。

鳥たちの恋の歌は、風の音、水の音、花の音、木々の音、いろいろな音と混じり、自然の中の素晴らしい交差点でしょう。あなたも自然の音に耳を傾けてください。

期 日 2017年4月29日(土)
時 間 8:00~12:00
場 所 大山公園駐車場
講 師 太田威氏(ネイチャーカメラマン)
サポーター 月山ビジターセンター・パーク・ボランティア
持 ち 物 双眼鏡(貸出あり)、飲料水、行動食、雨具(雨具は各自)
参 加 費 大人100円(小人無料、保険代別注)
定 員 なし
注 意 ①お申し込みは当日決定します。
雨天時は中止とさせていただきます。
天候の開催については、当日の午前6時30分までに「月山ビジターセンター」までお問い合わせください。
申 込 期 間 2017年4月27日まで。
お 申 し 込 み 方 方法は、下記どちらかの施設へ、TEL・FAX・メールのいずれかにお申し込みください。その際にお名前とご連絡先をお知らせください。(複数参加のために必要情報となり、それ以外には使用いたしません。)

①月山ビジターセンター
〒997-0211 山形県鶴岡市市原町手明字月山147-5
TEL 0235-62-4321 (FAX 兼用)
mail: visitor@bz04.plala.or.jp

②鳥海イヌワシみらい館(猛禽類保護センター)
〒997-8207 山形県酒田市草津湯ノ台71-1
TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
mail: moukin@raptor-c.com

主催: 月山ビジターセンター 共催: 猛禽類保護センター

○ゴールデンウィーク体験イベント「お鷹ぼっぽの絵付け&蜜ろうそく」

期 日 平成29年5月3日(水)~7日(日)
時 間 9:00~16:30
場 所 鳥海イヌワシみらい館
参加費 お鷹ぼっぽの絵付け・・・500円
蜜ろうそく・・・400円
当日直接会場へお越しください。※予約不要
お問合せ TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)
E-mail: moukin@raptor-c.com



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

今年のイヌワシの繁殖やいかに! もうすでに吉報が届いている地域もあるはず!(本)

事務局

この時期「凄いですね!」と言われる「そうなんですよ」と答える。何のことでしょうか? それは除雪でできた高〜い雪の山! 見応えありますよ(村)

希少種保護増殖等専門員

4月から職務名が変わりました。29年度もよろしくお願いたします。(長)

鳥海南麓自然保護官

4月より本省野生生物課へ異動となりました。2年という短い間でしたがありがとうございました。ごうございました。(鎌)

編集後記&施設情報

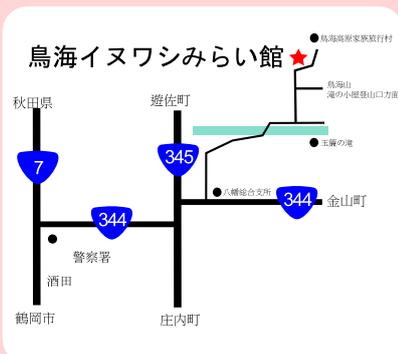
鳥海イヌワシみらい館 4月~6月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30
入館料・・・無料
休館日・・・無し

臨時休館日はホームページにてお知らせします。
ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

猛禽類保護センター

〒999-8207
山形県酒田市草津湯ノ台71-1
TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.22 春号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)